



府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2019年夏号 7月10日(水)発行 通巻73号
 発行人 小西 信生 (府中市四谷6-19-20)
 TEL 042-405-8524
 編集人 葛西 利武
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)

JAマイنزとの協働

府中町「農園塾」の開設

府中町「農園塾」は、府中町3丁目桶久保公園の隣で、今年3月から当会とJAマイنزが協働で始めた400㎡ほどの農園です。農園で農作業に参加して汗を流しているのは当会の会員で、概ね以前から農家での援農ボランティアに参加している方々です。



⑤物置づくり(資材の大部分は関係者寄贈)⑥完成したブルーシート物置と農園

府中市では1998年から援農ボランティアを開始、2003年の当会の会報では当時の府中市の援農ボランティアに参加する市民の人数は約90人だったそうで、直近では120人程度ようです。

市の仕組みは、前年中に農家の要望をヒヤリングした上で、4月の広報ふちゅうで公募し、応募した市民に援農先の農家をあっせんする方式です。ただし、現状の市民援農ボランティアの市の仕組みには、「あっせん」はあっても「育成と活動支援」は不足しているようです。

当会では2003年から独自の運用で援農事業を行なっていますが、現在2軒の農家で、当会会員25人がそれぞれの日程に分かれて、継続援農中です。

現在の当会の取組みがベストとは考えませんが、府中市の現在の方式では、定着率を見ても府中市の農家の要望や、市民の期待にも応えてはいえないようです。



農家からは高齢化など JAマイنز本店(兼西府支店/分梅町)にともなう労働力不足への対応や、市民ボランティアとの会話や消費者ニーズの一端をさぐるうえで有用との話もあり、市民の側からは、農業にふれあえることや、体や頭を動かして本人の健康維持にも役立ち、社会とつながることができること、農地の保全にも貢献でき、地域としてのまちづくりにも役立つといえます。

当会とJAマイنزが協働で始めた、府中町「農園塾」は来年(2020)は、一般市民を対象に市民援農ボランティア養成講座を開設する前提で、準備を進めています。

(小西 信生/竹田 勇)

「農園塾」概要 2019.7.1現在

- 1)農地: 個人区画(5m×6mの6区画)
共同区画(5m×18mの1区画)
- 2)塾生: 15人 塾長: 小西信生
副塾長: 竹田勇 鈴木利雄 吉永敏子(兼会計)
- 3)規則: 必須参加日 第1金曜日9:00~1時間程度
いつ来てもよく、作付自由、栽培日誌を記録する。
- 4)参加費: 1,500円(共同区画のみ) 3,000円(個人区画)

フィールドワーク

四谷小学校「多摩川探検」

小学校3年生の「総合学習」として行なう「自然観察」を、府中市立四谷小学校(以下四谷小と略)の授業の一部を受託し、継続実施している府中市立第五小学校の環境学習と同様に実施しました。

四谷小は多摩川に面した市西部に位置する小学校で、環境学習も「多摩川探検」の名称で、多摩川の河川敷を含む小学校周辺で実施しました。

フィールドワークは6月3日(月)8:45~10:20までの1~2時間で行ないました。当日の天候は曇り後晴、気温は22℃~25℃、1~2m程度の微風でした。

参加した児童は3クラス111人(4人病気などで欠席)、同行した大人は、当会会員9人、下堰緑地の会1人、3年生保護者17人、見学先のツバメの巣があるよつや苑2人、シジュウカラの巣のある個人住宅から1人、市環境政策から1人、担任教諭3人、計34人でした。



探検を前に先生のお話(四谷小学校庭にて)

ツバメの巣とヒナを見学し、多摩川河川敷等で自然観察

まず、小学校北側に隣接する地域包括支援センター「よつや苑」で、ツバメの巣で生まれたばかりのヒナを見学しました。5月27~28日頃に孵った巣と、6月2~3日に卵から孵ったばかりの巣2カ所で、生まれたばかりのヒナと、頻繁にえさを運ぶ親鳥を見学しました。その後、多摩川の河原と、小学校東側の西府緑地を見学しました。

季節は初夏で、植物はそれぞれに花や実をつけ、鳥や昆虫も数多く見られました。多摩川河川敷の中では、ハリエンジュ(ニセアカシア)の他に、実がなっているクワや、オニグルミの木も見られました。



⑤隣接する地域包括支援センター「よつや苑」でのツバメの巣の観察

(中央)多摩川河川敷への堤防を渡る
⑥河川敷での花の観察

野草が目立ったのは藤色のクサフジの集落や、草地一面に広がる濃いピンク色のムラサキツメクサ、白いドクダミの花、葦原の地面近くの真っ赤なヘビイチゴなどでした。

モンシロチョウも数多く見られ、アゲハチョウも観察できました。マルハナバチも飛んでいました。セキレイや、サギ、カワウ、オナガやムクドリなども飛んでいました。

多摩川に隣接した西府緑地東側では、ケヤキやウメ、サクラ、ヤマモモなど多くの樹木を観察し、シジュウカラの巣のある個人の御宅も見学させていただきました。

途中、「多摩川通り」や堤防上の「多摩川風の道」は自動車や高速の自転車の往来が多い所のため、多くの大人が安全確保のために活動してくれました。おかげで、子ども達は事故なく学校に帰ってくることができました。

1学期は、5月28日(火)に事前学習として、3階体育館で、美しい多摩川フォーラムさまからの、ドローンで撮影した全長138kmの多摩川の美しい情景のVTRを見た後、見学する多摩川を中心とした地形や自然についての予備知識をPC画面で提供しました。

2・3学期も継続して環境学習を予定

今後、2学期は樹木、野草、昆虫、野鳥、魚などを中心に子ども達はテーマを定めて学習していく予定です。

3学期は虫や草花はあまり見られませんが、多摩川は冬の渡り鳥が多く見られる時季でもあり、小学校前の四谷橋は野鳥観察で有名な場所ですので、例年通りならバードウォッチングで、10～20種類以上の鳥は観察できるでしょう。(小西 信生)

野鳥班

**くすのき「地域の自然調べ」
府中市立第五小学校3学年**

第五小学校の三年生が周りの自然について学習を始めた頃から「府中かんきょう市民の会」が関わり、今年もお手伝いをする事になりました。

6月5日(木)1校時(8:45～9:20)に体育館にて竹内さんが崖線の自然についての大まかな説明を行い、それを聞いた児童たちは学習内容が昆虫班、野鳥班、野草班、樹木班と分けられた中から自分の興味がある班を選択し、6月18日(火)の1～2校時(8:50～10:05)に、崖線での校外学習をそれぞれのグループで実施することに決定しました。



五小正門前のシンボルツリー「クスノキ」=樹齢100年以上、樹高18m、幹周2.6m



青空の下、
わり、
間もなく
先生の
お話が
終了

6月18日は梅雨の晴れ間の晴天に恵まれました。野鳥班40名は時期的に幼鳥を連れた鳥たちに会えるのではと期待しながら崖線沿いの道を進むことに。最初に出会った鳥は僅かに残っているクワの実を啄んでいるムクドリでした。「実が甘いのかな～」と真剣な目。

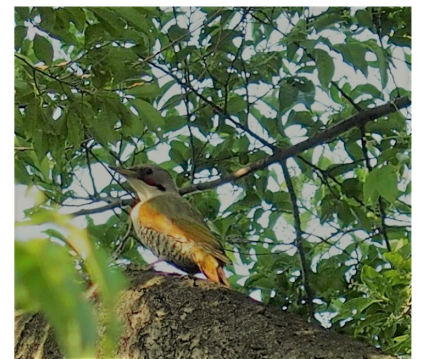
高台の見晴らしのよい道ではオナガ、ヒヨドリの飛んでいる姿に「カッコイイ～」の声。暑いにもかかわらず児童たちの興味は尽きないようです。

しばらく歩いて湧水近くの細道を通り過ぎ昨年アオゲラが掘った巣穴を見物。残念ながら姿は確認出来ないので写真を見せながら日本固有種である生態を話しはじめると、児童たちは盛んにメモをとりはじめていました。

本日観察する鳥も少なかった野鳥班にとっては、アオゲラの巣穴の件は今日の郊外学習で一番の収穫かと思われました。観察できた鳥はキジバト、ムクドリ、シジュウカラ、ヒヨドリ、オナガ、ハクセキレイ、ハシブトガラスの7種でした。
※①に参考として、アオゲラとアオゲラが開けた穴と思われる写真を掲載。(田中 香代子)



①アオゲラが開けたと思われる直径約5cmの穴 =2018年5月2日撮影



②アオゲラ =2018年4月29日撮影

わき水まつり(パート2/野外自然体験活動)を7月20日(土)21日(日)に開催します。詳細はプラッツ・文化センター・中央図書館等に配架の「ハケ・用水・わき水通信(No.32)」、ハケ掲示板3か所(本宿町緑地、あずまや前、西府町湧水前)、当会のホームページ(URLは本紙1ページ上)をご覧ください。

盛会裏に終了 **創立満20周年記念式典を開催**

NPO法人府中かんきょう市民の会は、2019年4月で創立満20周年を迎えました。当会は、1999年4月に府中市民の有志10数名が集まり、地域のまちづくりや環境問題を中心に活動する市民団体を発足させ、この度20周年を迎えました。

元号も平成から令和になった5月12日(日)、府中市市民活動センタープラッツの会議室を会場として、「記念式典・記念講演会・懇親会」の3部構成で開催されました。



参加者記念撮影



㊦写真/小西信生理事長 ㊧写真/高野律雄市長

3部構成 1.「記念式典」では、高野律雄府中市長をはじめ、当会の活動と深い関係のある市民協働推進部、生活環境部、都市整備部から各部長と課長のご臨席を賜った他、東京農工大学から小倉紀雄名誉教授、千賀祐太郎名誉教授にもご参列いただき、それぞれご祝辞をいただきました。

特に、高野市長からは市内の環境調査や子供たちの環境教育などを実践していただいている他、審議会や協議会などの委員もお願いしており、市の環境行政の伸展に貢献していただいているとのお言葉をいただきました。

2.「記念講演会」では、東京農工大学の小倉名誉教授から「私たちの暮らしと水」と題してご講演をいただき、府中市の水と暮らしの現状についてお話をいただきました。

3.「懇親会」では、当会の活動記録をビデオで放映し、出席者から20年間の思い出話などをご披露いただき、大いに盛り上がりました。出席者には、20周年を記念して当会の活動を338頁にまとめた「記念誌」が配布されました。式典は13:30に始まり、16:30に終了です。出席者はご来賓、招待者、会員を含めて総勢51名となりました。(竹内 章)

第16回 「身近な水環境の全国一斉調査」に参加して

6月2日(日)全国約760団体、延べ人数10万人が参加して全国6,200地点の北海道から沖縄県にいたる水環境調査に、当会は本年も参加した。調査結果は全国水環境マップ委員会に提出し、全国水環境マップ作成に



北多摩一号水再生センター下水処理水放水付近協力することになっている(6月5日世界環境デーに推奨)。

1. 調査地点及び時刻/多摩川府中管内6地点 8:30~10:30
 ①一号水再生センターと多摩川合流 ②東電鉄塔南
 ③大丸堰 ④京王線橋梁下 ⑤二号水再生センターと多摩川合流 ⑥府中リサイクルプラザ南
2. 調査項目/気温、水温、試水水温、COD1~3(化学的酸素要求量)、pH 注)CODは指定キット利用、pHは当会準備の試料 ※㊦㊧写真参照
3. 調査担当/グループ1(浅田、鈴木(千)、佐藤)地点①②③
 グループ2(五十嵐、柿本、小西)地点④⑤⑥
4. 調査環境/天候:曇り、気温24.5℃ 水温22℃~24℃
 試水水温22~24℃

5. 調査にあたっての考察

- 1)COD測定値 調査地点①⑤(下水処理水の放出口)は過去と同様値、その他地点は昨年よりよい。(COD値3~4)pHは、全国的数値のほぼ平均値(7~8)
- 2)調査した多摩川の水の流れはあり、透視度はよく、悪臭気もなく、各地点共多くの魚群が見られた。
- 3)調査地点②④⑤では、カモ、ツバメ、ムクドリ、サギ、ヒバリ等多くの野鳥が観察され、餌となる水藻、虫類が豊富と感じられた。
- 4)近年問題視されているポリ袋、調査地点⑥では6袋が浮遊していることがみられ、調査地点③では2袋が流れていて白いサギと見間違えるほどであった。今後の環境課題を提起していると思われる。

「身近な水環境の一斉調査」により多くの河川や水辺の様子や水質などの現状が把握できる。市民が自ら水質を調査し、水環境の実態を明らかにすることにより、その保全と修復に関する今後の活動に発展することが期待される。(佐藤 秀夫)



下水処理水が多摩川に合流した付近のCOD値

NPO法人
府中かんきょう市民の会

新入会員26人のご紹介

welcome! ☺
どうぞよろしく

「府中かんきょう市民の会」の会員には「正会員」と「賛助会員」の2種類がある。その違いは、おもに①「賛助会員」は総会に出席できるが議決権はない、②年会費が1000円(正会員2000円)、③活動のリーダーにはなれない等である。

今回は正会員3人、賛助会員23人の計26人のご紹介である。多くの方が援農ボランティア活動(竹田勇リーダー)出身者である。ちなみに、今まで会員数が最も多かったのは60人(正会員59人、賛助会員1人)だったが、今回63人(正会員38人、賛助会員23人、休会2人)となった。(編集部)

掲載はアイウエオ順。氏名、年代、住所、文章と続く。1行程度の文章は、竹田氏の聞き取りと既知の情報。住所の「府中市」省略。援農ボランティア<援>、田んぼの学校<田>、新設の府中町農園塾生は<塾>とした。(2019年5月12日現在)

正会員3人

1.小松 智子 50代 四谷 TT(トランジションタウン)府中 <援>
わたしたち夫婦が府中に越した理由は、家のそばに雑木林が茂る美しい下堰緑地があったことです。そして緑地整備のボランティアをするなかで、ご近所のステキな方々と知り合うことができました。かつてゴミ捨て場のような下堰緑地の清掃をリードして、地域に託してくださったのは当会とのこと。心から感謝いたします。

今は夫婦共々、援農に参加し微力ながら気持ちよい汗を流しています。マイペースで末長く活動したいです。

2.林 丈雄 30代 小金井市在住ですが府中市に移転希望
私は鹿児島出身ですが、府中とのご縁は2003年に千賀裕太郎先生を目がけて入学した農工大農学部からスタートします。博士(農学)取得まで10年半、静岡県三島市のNPO法人グラウンドワーク三島を中心に国内外の環境保全の現場で学び、自転車で行く全国・西欧諸国を周りながら酒蔵や農山村、漁村の魅力を感じてきました。

本会の活動にも時折お邪魔してきましたが、まだまだ知らない府中の豊かな緑と水、深い歴史を学び、活動していきたいです。

3.吉武 考三郎 60代 府中町
当市に転入して7年。けやき並木に代表される自然景観や公園・緑道そして文化施設の充実、お祭りに代表される伝統と歴史の蓄積などに触れ、ますます府中市が好きになりました。何か貢献できればと思っております。

賛助会員23人

4.雨倉 紀美子 60代 四谷 主婦が好き <援>

5.安藤 良則 60代 府中町 <援、塾>
ジョギングが得意 会報64号に寄稿

6.和泉 英世 60代 調布市染地 <援>
地球上の食糧生産に役立ちたい

7.大谷 建夫 70代 府中町 農園塾の近所に住む<塾>

8.小野 雅之 40代 若松町 会報68号に寄稿 <援>

9.小山田 久美子 60代 白糸台 <援>
野川公園愛護団体 趣味多芸

10.加賀 さゆり 50代 浅間町 <援>
バターづくり得意 援農ボランティア経験豊富

11.笠木 清徳 60代 南町 ジョギング得意 <援、田>

12.鴨志田 悦郎 60代 幸町 アグリカレッジメンバー<塾>

13.川崎 英雄 60代 本宿町 アグリカレッジ卒業 <援、塾>

14.久保 美智子 40代 矢崎町 <援>
山登り 会報71号に寄稿

15.古賀 登喜子 北山町
バス研修会に遠足気分で参加させて頂き、もう何回になるでしょう。おいしい所だけの参加で申し訳なく思い 賛助会員にさせて頂きました。趣味はいろいろありますが数独は名人編に挑戦しています。よろしくお願ひします。

16.小松 好幸 50代 四谷 卓球 <援>
TT(トランジションタウン)府中

17.澤田 貢 60代 分梅町 ジョギング得意 <援、田>

18.関原 浩之 50代 四谷 CO2削減に熱心 <援、田>

19.田上 昌宜 70代 新町 新町第3公園(市民花壇)
の活動をしたいです。

20.寺内 とし江 70代 新町 野菜づくり <塾>

21.野田 直敏 70代 杉並区今川 <援>
野川公園愛護ボランティア 会報68号に寄稿

22.萩原 奈美 60代 本宿町
初めまして。環境に興味があり入会 しました。今一番の興味は「グリーンインフラ」です。一番気になるのは農業公園です。府中で生まれ、育ちました。子どもや孫たちの代まで住みやすい府中であるためなら何でも協力します。よろしくお願ひいたします。

23.平井 恭二 60代 日鋼町 <援、塾>
アグリカレッジメンバー 会報64号に寄稿

24.山崎 知子 60代 清水が丘 趣味多芸 <援、田>

25.吉永 敏子 60代 南町 アグリカレッジメンバー
<援、塾>

26.渡辺 紀子 60代 緑町 <援、田>
援農ボランティア経験豊富

3公園 府中市委託事業公園清掃活動の現状

府中かんきょう市民の会は府中市より「押立町緑地」、「栄町中央公園」、「かわごえどう広場」の3公園の清掃を委託されている。詳細は下表をご覧ください。

平成30年度は3か所とも月2回の清掃日を決めて年24回合計72回の清掃を実施した。また、11月から1月にかけて落ち葉銀行にも参加している。参加者としては年間72回の延人員は269名であった。※④写真参照

3公園の府中市からの委託料は、当会の運営費のうち大きな収入となっていることから、今後とも会員のより多数の参加者により、公園清掃を継続して公園の美化に協力してゆきたい。
(高橋 和夫)



公園名	実施回数	参加人数	平均参加人数	公園の面積	清掃日(雨天順延)
押立町緑地	24	136	5.7	2798.10㎡	1、3月曜日 8時～
栄町中央公園	24	97	4.0	642.80㎡	1、3日曜日 10:30～
かわごえどう広場	24	36	1.5	234.06㎡	2、4土曜日 10:30～
合計	72	269	3.7	3674.96㎡	

減らそう！
CO2

2019 府中環境まつり

6月1日(出)う曇りのなか、環境まつりが府中公園で開催されました。テーマは昨年同様、「楽しく学んでCO2(コツ)CO2(コツ)減らそうCO2(2酸化炭素)」です。

出展社数は42団体(20事業者、13市民団体、新規参加9団体)、フリーマーケット数は100店前後、ステージ出演者数は5団体です。

開幕は10時ですが会場準備は8時頃から始まります。昨年の猛暑・土埃の反省から公園内に水道が仮設置され、市職員が長いホースで随時会場全体を散水、如雨露(ジョウロ)も多数準備しました。主催者側の取り組みもよく、日差しもさほどでなく過ごしやすかったです。

隣のブースは元・現かんきょう市民の会会員が参加している市民酸性雨調査の会、トランジションタウン府中、ひな草の会(新規)でお互いに挨拶を交わしながらブースの準備です。

プラトンボづくり 開幕前状況/9時15分には準備完了



当会はかんきょう市民の会紹介パネル、西府崖線保全活動パネルの展示、プラトンボ、バッタ作り体験、チョウ飛行機、クイズラリーへの参加を通して環境保全への当会の取り組みを紹介します。

10時開会宣言。開幕と同時にクイズラリー目当ての来場者がスタンプ用紙を片手に来店。クイズに答えてスタンプを



府中環境まつりのチラシ

押印すると、展示物を見るだけでなく、次のクイズラリーブースへ急ぎます。クイズラリー目当ての一波が過ぎると体験目的の親子連れが増えます。

ブース前でプラトンボ・バッタ・チョウ飛行機で来場者にアピールします。プラトンボの華麗な飛び、バッタの精巧さに声があがり、プラトンボ作成・バッタ作り体験者も徐々に増えてきます。

我々も他の団体の鳥の巣箱づくり体験に参加し、巣箱1個を制作します。午後3時に閉会宣言で閉幕しました。来店者数は263名(昨年224名)で昨年より若干増でした。

(柿本 正夫)

2019年度(令和元年)定期総会開催

令和元(2019)年度定期総会が中央文化センター第5会議室にて、4月10日(木)13:30～14:30に開催された。当日、正会員37人中18人の出席と6人の委任状提出があり、過半数の19人を超えたので総会は有効に成立した。

理事長挨拶、議長・議事録署名人の選出のあと以下の議題に入った。議題は質疑応答の後、すべて承認された。

- ①平成30年度事業報告並びに活動計算書(決算)について、
 - ②平成30年度会計監査報告、
 - ③令和元年度事業計画並びに活動計算書(予算)について、
 - ④令和元年度の事業分担について、
 - ⑤令和元年度の会員名簿とグループ員の構成について。
- 以上、ご報告する。

2019 米づくり体験

田んぼの学校 開校式・田植え

今年の5月は異常猛暑

「第14回田んぼの学校2019／開校式・田植え」が、5月26日(日)晴天に恵まれ開催されました。今年も昨年同様、第2回イネ刈り・ハサかけ、第3回脱こく・モミすり・修了式の3回の開催を予定しています。

今年の5月は異常な猛暑で、北海道で39度、ここ府中市でも30度を超す真夏日になりました。熱中症対策として管理棟わきの日陰を利用して開校式を開催。スピーディーな運営、水分補給を促すなどの配慮をしながらの開催となりました。

今年は34組43名の応募があり、34組42名の受講者を決定して開校しました。当日は生徒36人、保護者32人、見学の母子2人、市役所3人、スタッフ17人、農工大耕地の会9人等で99人の参加でした。



田んぼの1年を説明

生徒の一番乗りは8時30分です。受付で参加費の徴収、資料配布、薄手袋、足に被せるビニール袋の配布、体験靴の貸与等で長い列ができます。9時過ぎ登校する生徒もいて、予定より少し遅れ9時10分に開校しました。小西理事長の挨拶が始まり、環境政策課浦川課長が続きます。

その後、稲の一生、田起こし、代かき、田植え、稲刈り、脱こく、モミすり、精米を説明。田んぼの生きもの説明ではモンシロチョウを呼ぶ紙のチョウ、チョウ飛行機、昆虫の標本を提示。昆虫の標本には生徒が一斉に身を乗り出します。

初めてのぬかるみ体験

恒例のピョピョさん体操で身体をほぐし、待望の田植えです。体操の後、水分補給をして田植えする田んぼの場所へ移動します。田んぼ近くの畦でビニール袋を長靴の上から被せ、粘着テープで固定します。昨年はビニール袋の固定が甘く、外れた苦い体験から、今回は実演を見せ、時間をかけて固定しました。準備完了後、2組に分かれ東西の畦に並びます、生徒全員の前でスタッフが田植えの実演をします。



長靴に袋カバー取付け

実演後一斉に田んぼに入りますが、大半の生徒が初めての田んぼ、初めてのぬかるみ経験なので恐る恐る足を入れます。最初の1歩、2歩は足を抜くのが大変で一列に並ぶのが一苦労です。生徒の後ろに保護者、農工大スタッフが待



田植え開始

機し、稲を補充します。「田植えは山梨でやったことがあるから今日も田んぼに入るのが楽しみ」と言うやる気満々の女の子、「歩き方はどうすればよいですか?」と大股で歩こうとして足が動かないお父さん。大人でさえも田んぼ中の移動は四苦八苦しています。整列が完了すると一斉に田植え開始です。

一人で4カ所植えると全員が30cm後退し、次の場所に植えます。足がぬかるみから抜けずバランスを崩してしりもちをつく生徒、保護者たち。肩から下げたポシェットが泥にまみれ、急いで、身体の前に持ち直す母親。長靴がぬかるみから抜けず、足だけ抜けて片足立ちでバランスを取り、器用に足を戻す姿も。泣き出してやめたがる生徒、父親が励ますがその甲斐なく断念です。

にぎやかな田植え風景



田植え中の楽しそうな親子の会話 スタッフによる苗の小分け

にぎやかな田植え風景です。最初は慣れない手つきで時間がかかったが徐々に要領がよくなり、苗の補給が追いつかなくなります。「苗がなくなったよ!」と苗を要求するたくましい生徒。

半分終わった段階で水分補給。生徒は田んぼの中でそのまま待機し、スタッフが10人余の水が入った紙コップを持ち、バランスよく全員に配って回ります。ほっと一息、一休みです。後半は足の運びもスムーズで順調に進みほぼ時間どおりに完了します。

田植え後は足洗い、水分補給、貸し出した体験靴を洗って返却です。バケツ稲の説明、次回のプログラムを説明して開校日の全プログラム終了。帰り際にバケツ稲用土、苗、肥料の大きな土産をもらって帰途につきます。熱中症が心配されましたが幸い大きな事故もなく完了しました。

次回はイネ刈り・ハサかけ(9月22日)です。(柿本 正夫)